

甲虫ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 3 (SEPT. 1968)

オオツカサルハムシの正体

大野正男

かつて松村松年博士同定の未記載種の名称を、同定依頼者が勝手に自分の報文に引用した時代があり、そのための混乱が未だに解決されないでいるものも少なくない。ここに挙げるオオツカサルハムシなどもその例の1つである。

このハムシは、大塚鉄男氏が、余が採集に係る新種に就きて(昆虫世界15巻2号, 59—63頁, 1911)という報文中に、*Nodostoma otsukae* Mats. の学名で発表したもので、種名の発表だけなら、そのまま抹殺することができるが、♀による3頁にわたる記載文まで載っているのだから、いささか面倒な種となっている。しかし、最近発表された中条・木元(1961)のカタログや、木元(1964)のモノグラフなどでは、本種は完全に無視されている。あるいは、このような扱いが妥当であるかもしれないが、筆者は少々気になるので、1966年8月、北大を訪れ、渡辺千尚博士のご好意で松村博士のタイプ標本を検した際、上記のハムシについても注意してみた。その結果、上記種名の根拠になったと考えられる、*otsukae* のラベルがついた標本を発見、その正体をつきとめることができたので、ここにかんたんに記録しておくことにする。本文を草するに当たり、快くタイプを検する機会を与えて下さった渡辺千尚博士に厚くお礼申し上げます。

結論を先に述べると、このハムシは独立種ではなく、*Basilepta balyi* (Harold) ハンノキサルハムシのシノニムということになる。しかし *Basilepta balyi* にはいくつかの色彩型があり、*otsukae* はその1型と認められるべきものである。

この型は、翅鞘中央部(基部と、後方 $\frac{1}{4}$ ほどが赤褐色)が幅広く黒色を呈し、他の部分は概ね原型と同じ色彩のものである。そうして、この翅鞘の色彩により、原型からも、また *japonicum* (体全体がほとんど黒くなっている)からもはっきり区別することができる。

Basilepta balyi は、日本(北海道、本州、佐渡、伊豆諸島、四国、九州)、千島に広く分布(北海道のものは脚が黒くなく、subsp. *ezo* Nakane, 1963として区別されているが、このような個体は北海道だけのものだけでなく、本州にも産し、しかも脚の黒い個体と混棲している。したがって、脚の色だけの特徵で、北海道の *balyi* を亜種として分けることはできない。しかし、北海道の本種は、翅鞘肩部の隆起度などに差違が認められるので、こうした形質まで考慮に入れれば、*ezo* の亜種名を生かすことができる。ここでは便宜上区別せずに扱っておく)するが、その1型である *japonicum* は、本州の、主として中部と東北の一部で原型と混棲するだけであり、更に *otsukae* になると、*japonicum* より一層分布範囲が狭くなり、目下のところ、上高地など、長野県の山岳地帯が主な産地として知られているだけである。これら3型の詳しい分布状態については、いずれ、別の機会に改めて発表するつもりである。

(埼玉県鶴ヶ島町)



科学技術庁の長期在外研究員として、2月3日から1年間、British Museum (Natural History) で勉強することになりました。ここは一般に Natural History Museum と呼ばれ、ギリシャやエジプトのコレクションで有名な British Museum とは別です。

この Museum は、Zoology, Entomology, Palaeontology, Mineralogy, Botany の Department からなり、Entomology は分類群ごとに 11 の Section にわかれています。

甲虫部門のスタッフは、つぎの通りです。

博物館の職員

R. D. Pope (いろいろの科をやっている)

R. T. Thompson (ゾウムシ)

Miss C. M. F. von Hayek (コメツキムシ)

Commonwealth Institute of Entomology
の職員

E. A. J. Duffy (カミキリの幼虫、ダフィーと読む)

R. B. Madge (ゴミムシ、ツツシクイ)

N. A. Aslam (正式にはハムシを調べることに
なっているが、ゾウムシ、ミツギリゾウ、ヒ
ゲナガゾウも同定している)

別刷や必要な単行本は、各 Section ごとに書棚があり、また個人でも相当よく整った別刷を持っています。昆虫の図書館には、昆虫関係の雑誌と本のみが集められていて、動物関係の雑誌は動物の図書館に、また科学一般の雑誌は General Library にあります。ここの人達は、複写をして文献を集めるようなことをしなくてよいので、昆虫の図書館には複写の設備がなく、ゼロックスは

隣の Science Museum のを使っています。少しのページでしたら、無料で複写してくれますが、多くなるとどうなるか、まだ調べていません。

Museum の近くには安ホテルがたくさんあり、朝食付で1日25シリングが最低です。部屋を借りると、最低が1週間で4ポンド10シリング、1日3ポンドあれば暮せます。

一般の visitor は10~4時が研究時間ですが、Ticket をもらうと、9~5時まで研究でき、土曜は10~4時までできます。博物館内は禁煙で厳重にこれが守られていますので、タバコの好きな人には、大変な苦痛だと思います。Tea breakや、昼食時間も、各人まちまちで、私は日本にいたときと同じように時間を使っています。

先日ハワイの Dr. Yoshimoto と共に、E. W. Classey を訪ねました。Classey は昆虫や植物の好きな好紳士です。昆虫の別刷は、目ごとに、60×30×30cm ぐらいの木の箱に入っていて、科の ABC 順に厚紙で支切って並んでいます。昆虫の別刷を、このように並べるには、Professor 以上の知識が必要だと自慢していました。Crowson の A Natural Classification of Coleoptera の reprint は、飛ぶような売れ行きで、あと少しになっていましたので、希望者は、すぐに注文して下さい。これは原本に Addenda et Corrigenda をつけたもので、改訂版ではありません。日本人の金の支払は、非常に正確であるが、何故個人ばかりが注文して、図書館からの注文がないのかなどと質問されたりしました。

[現住所 11 Sumner Place, South Kensington London S. W. 7.]

○タイワンツノコガネを採集する

最近、白水隆(昆虫と自然, Ⅲ, 3: 34) 及び朱耀沂(前出, Ⅲ, 7: 30) 両氏は、タイワンツノコガネの生態断片を相次いで報告され愛好者の注意を喚起されたが、私も今夏の台湾採集行で本種を採集することが出来たので、その折の状況について報告したい。尚本種採集の折には菊池孝彦学兄の助力を得た。記して感謝の意を表す。

本年5月25日台湾南部の墾丁公園内におけるイヌビワ (*Ficus* sp.) の果実にはナムグリやカナブン等に混り多数の本種が群棲しているのを発見、その内の11♂♂、6♀♀を採集した。これらコガネはイヌビワの青い果実を食害し、それによって青い果実の表面は所々黒褐色を呈していた。イヌビワの実に多数のナムグリ類が集来する状況は1965年6月30日、宮古島平良(インガキナムグリ宮古島亜種)でも目撃している。

又同公園ではアカメガシワより多数のアカギカメムシと共に本種3♂♂、2♀♀をも採集しているのので附記しておきたい。(東京都新宿区 高橋慶二郎)

○新潟県未記録の天牛2種

新潟県下から知られている天牛は、現在206種で、それらはさきに“新潟県産天牛科総括(1953, 1954), 同補遺(1961)”および“佐渡島の天牛相(1967)”等に報告したが、その後更に若干の未記録種が発見されている。本小文では取敢えずそれらのうち、特に興味ある次の2種について報告したい。標本はいずれも筆者が所蔵するが、自身の採集品を快よく提供された伊丹英雄君に謝意を表す。

1. トウキョウトラカミキリ, 19. v, 1962; 26. v, 1963; 1. vi, 1965 および 21. iv, 1963 (伊丹採), いずれも各1頭ずつ、新発田市蔵光地内水谷沢で花上より採集されている。

2. ヒメシラオビカミキリ, 30. iv, 1966 に北蒲原郡聖籠村次第浜の海岸砂丘で、伊丹君により砂防林のアカマツの枯枝から1頭採集された。本種が海岸で採れるとは全く予想外であったが、詳細は今後の調査に待ちたい。

なお、本個体は subsp. *hondoensis* の記載によく一致する。(新潟県新発田市 小池 寛)

○屋久島のカミキリ2種の記録

ヤクシマヨツスジハナカミキリ *Leptura yakushimana* (Tamanuki) は屋久島産の1♀によって記載され、その後絶えて記録がなく、珍中の珍として北陸館の大図鑑にも絵で載った程であったが、昨年、原記載以来初めて採集され、林匡夫博士の許にもたらされた。

筆者は須賀邦輝氏と共に本年7月8日より18日まで屋久島を訪れる機会をもち、小杉谷に於いて、10数頭の本種を採集したので、ここに報告する。花からは殆んど採集出来ず、伐採地を飛翔するもの他、好んで灯火に集る習性が見られたのは、この属のハナカミキリとして珍しい事と思われた。

又、7月15日、宮之浦岳の1.450m程の地点で、須賀君のネットにいつのまにか、タイワンホソコバネカミキリ1♂が入り込んでいた。この種としては屋久島初記録と思われるので併せて報告する。

(横浜市金沢区 高桑正敏)

○オオチャイロハナムグリ市房山に産す

オオチャイロハナムグリは九州では従来英彦山、多良岳等で僅かしか採集されていない九州産コガネムシ類の珍種の一つであるが、筆者は最近北九州市戸畑の宮崎俊士氏から、同氏が、1964年8月14日市房山1合目(熊本県側)付近のクスの木の朽木で採集された本種の1♂を恵与され、発表することを許されたので九州における本種の新産地として報告する。なお本種の標本を恵与され発表することを許された宮崎俊士氏に厚く感謝する。

(熊本市 大塚 勲)

○オオマルナガゴミムシ三浦半島の記録

オオマルナガゴミムシ (*Myas cuprescens*) をこのほど三浦半島神武寺でトラップ採集により得たので報告する。

1♀ 三浦半島神武寺 21. vi, 1967

1♂ 同上 28. vi, 1967

(横浜市中区 奥村 尚)

○アオオサムシ(原亜種)の赤肢型の採集

アオオサムシ原亜種 (*A. i. insulicola*) は、多くの地域変異を伴って、本州東半部に広く分布しているが、従来全て黒肢型ばかりであった。ところがこの程山梨県の一部で、黒肢型に混って、明らかな赤肢型を採集したので報告する。

1♀1♂, 山梨県都留市沢戸, 3. vi, 1966, (採集頭数1♂3♀のうち)

1♀, 同上, 7. vi, 1968, (3♂10♀のうち)

1♀, 山梨県都留市曾雌, 7. vi, 1968, (8♀のうち)

なお、以上4個体の赤化の程度は、各脛節上面に著しく、跗節の一部が赤味がかかる個体もある。

現在、アオオサムシ(原亜種)の先祖と考えられているカケガワオサムシやマヤサンオサムシがほぼ赤肢型ばかりである点から、飛び離れた山梨県の一部にこのような先祖返りのような型を生じる事は大変興味深い。(同地には、シズオカオサムシの分布が認められていないのでシズオカオサムシとアオオサムシの雑交型とは考え難い。)

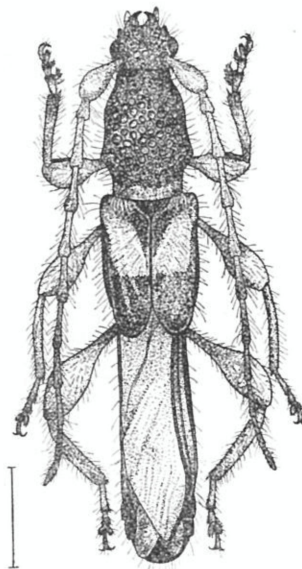
上記二産地の周辺地域(九鬼山、天神峠など)でも若干の本亜種を得ているが、赤肢型要因は恐らく

ヤマトチビコバネカミキリの分布と加害植物

木村 欣二

ヤマトチビコバネカミキリ *Leptepania japonica* Hayashi の分布は本州、四国で、本州での産地は西日本に限られ、奈良市春日山、大阪府箕面、神戸市摩耶山など京阪神地方が知られ、それ以東の記録を知らない。筆者は茨城、栃木、群馬三県の境にある渡良瀬川遊水池の栃木県野木町に近い所にある雑木林中より冬に持ち帰った枯枝より、本種を羽化させたので報告する。

持ち帰った枯枝から羽化したのは1968年5月20日より27日までの間であったが、野外での出現期もほぼ同時期で、5月26日より6月12日にかけて相当数が採集された。筆者も6月1日に遊水池内で採集することができた。同地での個体数は決して少なくない。持ち帰った枯枝はクワであったが、野外ではアカメヤナギの枯枝に最も多く、ナガバヤナギ、クワがこれに次ぎ、他にハンノキや例外的にコナラからも採集した。ヤナギ類に寄生することはほぼ確実と思われる。この事実を基に、衣笠恵士、小宮次郎両氏は埼玉県田島ケ原を、露木繁雄、田中康彦両氏は利根川下流の千葉県佐原付近を、それぞれ調査されたが、本種を発見出来なかった。なお両地ではアカメヤナギは見出せなかったと云う。(東京都品川区)



1 mm

遺伝子が関与したものと思われるので、特定の小地域において高い頻度で出現する事が予測される。従って、少なくとも上記産地の周辺地域では詳細な分布調査により分布が確認されるものと思われる。

(横浜市中区 奥村 尚)

○山形県のクロナガオサムシ

山形県の平地から低山地にかけて、どこにでも普通に見られるのはコクロナガオサムシ (*C. exilis* Bates) で、真のクロナガオサムシ (*C. procerulus* Chaud.) は、10余年に及ぶ私の米沢市及び山形市在任期間中、次の1例を除いて見出したことがない。

2♂♂ 山形県西村山郡西川町志津(約700m), 2. v. 1942, 黒沢良彦。

平地のコクロナガオサばかり見つけた私にはこの2頭のクロナガオサは異様に感じられたのであろう。当時の日記に“平地産とは異り、北海道産と同型なり”と記してある。当時はコクロナガオサもクロナガオサも全く区別されてなく、アキタクロナガオサとはコクロナガオサの細型のものを指し、真のアキタクロナガオサ (*C. porrecticollis* Bates) はホソオサムシ (*C. tenuiformis*) と称されていた時代であった。

なお真のクロナガオサは東北地方の真日本側では、福島県の会津地方では平地に近い低山地でもコクロナガオサに混じって採集されるが、後者よりは遥かに少なく、南会津の山地になると逆にコクロナガオサはほとんどいなくなり、クロナガオサばかりになるが、山形県になると平地では見当らなく、かなりの深山でないといなくなるのは面白い。またコクロナガオサも山形県のもは大型で、一見クロナガオサと見誤るようなものばかりで、会津産のもので記載された亜種トウホククロナガオサ (subsp. *parexilis* Nakane) のような細長い♂がないので、私はこの両地方のものを同一亜種にしておくのは不合理と考えている。(東京都世田谷区 黒沢良彦)

○クリの花に集まるカミキリムシ(1)

私が以前住んでいた山形県南部や福島県会津地方では、クリの花は6月下旬から7月中旬にかけて咲く。

この花にはいろいろな甲虫や蜂が来ることは周知の事実であるが、私がこの花で得たカミキリムシ類数種について書いてみたい。

オニホソコパネカミキリ *Necydalis gigantea*

Kano 1♂, 7. vii. 1941, 山形県米沢市花沢

私の家の裏の墓地にあるクリの大木の花に来て飛び廻っていたもの。飛んでいる様子は丁度同時期に発生するコンボウアメバチそっくりで、捕えて殺虫管に入れる時はもちろん帰宅後殺虫管から出すまでカミキリとは夢にも思わなかった。この標本は故平山修次郎氏に差上げ、後に故大林一夫氏が *Necydalis marginalis* と命名された標本そのもので、上翅の側縁が美しい黄色をしていた。(東京都世田谷区 黒沢良彦)

○クロソノモリヒラタゴミムシ日光大沢で採れる

クロソノモリヒラタゴミムシ *Colpodes kurosonensis* Habu は一見オオアオモリヒラタゴミムシ *C. buchanani* Hope を細長くした様な体をしていて、四国黒尊で得られた1♂によって記載された。オオアオモリヒラタゴミムシと同様に上翅端に鋭い歯を有する事により *Metacolpodes* 亜属に入り、他の日本産の種類とは一見して区別出来る。原記載以後、佐多岬、奄美大島など暖地で記録され、暖地の種類と考えられていたが、衣笠恵士博士が日光大沢で採集された歩行虫の中から本種を発見した。これは本州初記録で、四国から一気に此様な寒冷地にまで分布が北上したわけである。この標本は原産地の標本や原記載と較べると幾分色が濃く、上翅端の歯の形が多少異なる。

1♂, 1968, 群馬県片品村大沢, 衣笠恵士

(東京都世田谷区 須賀邦雄)

甲虫談話会:

会費(1カ年)500円, 第4号は11月末発行予定, 投稿切は10月15日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電(822)0111, 振替東京 60.664

○台湾産ハナムグリ類 価格表 東京都練馬区石神井局私書箱3号 大蔵生物研究所

		♂	♀			♂	♀			♂	♀
ヒメトラハナムグリ台湾亜種		120		キンカナブン(緑色型)		50		タイワンシロテンハナムグリ		50	
タイワントラハナムグリ		100	150	"(赤色型)		150		" 青色型, 緑色型		80	
オスアカトラハナムグリ		50	50	"(紺色型)		300		ナカバヤシツヤハナムグリ		100	
アカスジトラハナムグリ		50	50	ケバネカナブン		100		オオムラサキハナムグリ		500	
ミドリトラハナムグリ		200	300	クロハナムグリモドキ		50		カバイロハナムグリ		70	
" 赤色型	時価			ホッポエグリコガネ		100		コウトウカバイロハナムグリ		100	
アオムネアシナガハナムグリ		150	200	キオビエグリコガネ		100		ハイイロハナムグリ		100	
ミワシナガハナムグリ	時価			カギエグリコガネ		100		クロマダラコガネ		100	
タイワンツノコガネ		50	30	ワイモンエグリコガネ		100		クロハナムグリ		40	
ツノカナブン 緑色型		80	80	チャイロエグリコガネ		100		オオクロハナムグリ		150	
" 赤色型・紫色型		150		ヨツスジエグリコガネ		70		クビワハナムグリ		100	
" 青色型・紺色型		200		ヨツボンエグリコガネ		70		シロヘリヒメハナムグリ		100	
コウセンホソカナブン		100		"(緑色型)		100		コアオハナムグリ 緑色型		50	
タイワンチャイロカナブン		70		"(黒色型)		70		" 赤色・黒色型		80	
クモカナブン		100	70	カバイロエグリコガネ		120		" 有紋型		150	
タロカナブン台湾亜種		100		キンヘリハナムグリ		150		ダビドホソコガネ		100	
タイワンアカカナブン		70		シロテンハナムグリ		100					
"(青色型)		100		タイワンシラホシハナムグリ		100					